

自著と
その周辺

救急・集中治療ガイドライン —最新の診療指針— 2010-'11

編筆 岡元和文

総合医学社
355頁
2010年
定価 6,500円

信州大学医学部附属病院高度救命救急センターの診療でいつも気をつけていることはグローバル・スタンダードです。独りよがりの診療は好ましくないと考えています。医局員や研修医にもグローバル・スタンダードをもとに診療を行えば世界に通用する医師・研究者になれると説いています。グローバル・スタンダードで行った診療であれば臨床研究報告や症例報告も容易です。欧米および本邦でガイドライン作成が盛んになった2004年の頃です。出版社の社長さんから“何かいい企画はないですか”と問われこの本が生まれました。企画の理由は、

1) 救急医学や集中治療医学が対象とする疾患と病態は幅広いだけでなく本領域の診断と治療技術の進歩は日進月歩であること、

2) 自分が得意とする分野は別にして本領域の全ての疾患と病態に対して国内および国際標準レベルの診断と治療指針を把握し続けるのは難しいこと、

3) 一方、私達、救急科医および集中治療科医は、対象とする全ての疾患と病態に対して国内および国際標準レベルのガイドラインを視野に入れながら診療することが求められていることによります。

これらの難しさを克服し、多忙なスタッフが、高いレベルの診療を継続できるように意図して生まれたのがこの本です。

これまで、2006年版を最初に、2008～2009年版と版を重ね、この2010～2011年版は3版目になります。項目数も2006年版の109項目から2010～2011年版では123項目に増加しました。国内の多くの先生に好評を博しているようで企画のかがあったと考えています。

項目は、緊急処置・蘇生・手技の指針、救急外来での対応の指針、ショックの治療指針、外傷・熱傷の診断・治療指針、脳神経系疾患の診断・治療・ケアの指針、呼吸器系疾患の診断・治療・ケアの指針、心血管系疾患の診断・治療・ケアの指針、消化器系疾患の診断・治療・ケアの指針、泌尿器系疾患の診断・治療・ケアの指針、産婦人科系疾患の診断・治療・ケアの指針、急性中毒の診断・治療・ケアの指針、環境障害・電解質異常・皮膚障害の診断・治療・ケアの指針、精神障害・法医学・倫理の診断・治療・ケアの指針に関する内外の指針を網羅するように勤めてあります。

この本の執筆には、本学関係の多くの先生に協力を頂きました。信州の多くの仲間の支えで生まれ育った本と言っても過言でないでしょう。長野県立こども病院新生児科の中村友彦先生には“新生児心肺蘇生法の指針”，医学教育センターの多田 剛先生には“頭痛患者の指針”，高度救命救急センターの岩下具美先生には“外傷による心停止の管理指針”，長野市民病院脳神経外科の大屋房一先生と聖マリアンナ医科大学脳神経外科の田中雄一郎先生および本学脳神経外科の本郷一博先生には“脳梗塞に対する血栓溶解療法の指針”，内科学第1講座の久保恵嗣先生には“重症肺炎の治療指針”，そして私が“人工呼吸器からのウイニングの指針”，高度救命救急センターの元スタッフで鹿児島大学附属病院救急部の堂籠 博先生には“嚥下障害による誤嚥防止の指針”，高度救命救急センターの今村 浩先生には“徐脈の緊急処置指針”，諏訪赤十字病院第2循環器科の筒井 洋先生には“急性心筋梗塞に対する血栓溶解療法の指針”，心臓血管外科の福井大祐先生と天野 純先生には“腹部大動脈瘤破裂の治療指針”，昭和伊南総合病院麻酔科の大房幸浩先生には“妊婦の心肺停止の管理指針”，高度救命救急センターのOBで平林内科クリニックの平林秀光先生には“嘔吐薬の使用指針”，信州大学名誉教授で警察庁科学警察研究所の福島弘文先生には“異状死の判定指針”をお願いしました。

この本を見ることで、読者は、国の内外に、どのような“救急・集中治療ガイドライン—最新の指針—”があり、どのような考え方が、国際および国内スタンダードかを理解できるようになるでしょう。この本は、救急科および集中治療部で研修をはじめ研修医やベテランの先生だけでなく、救急診療や重症患者診療を行う全科の医師に極めて有益な情報を提供してくれると自信を持っています。

(信州大学医学部救急集中治療医学講座 岡元 和文)